

住友化学が次世代の化学品安全情報管理データベースを構築、運用開始

住友化学は、化学品の安全管理に関する情報を統合・管理する社内データベースとして、「化学品総合管理システム（SuCCESS： Sumitomo Chemical Comprehensive Environmental, Health & Safety Management System）」を構築し、2009年1月から運用を開始しました。

「SuCCESS」は、SAP ジャパン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長兼 CEO：ギャレット・イルグ）が供給する「SAP Environment, Health & Safety (SAP EH&S)」を基盤としており、システムの導入にあたってはソリューションパートナーとして株式会社日立製作所（本社：東京都千代田区、執行役会長兼執行役社長：川村 隆）国際法規関連情報のアウトソース先として米 3E Company（本社：米国カリフォルニア州、社長：ロバート・S・クリスティー）の参画を得ました。SAP EH&S は、グローバルにビジネスを展開する欧米の多くの大手化学メーカーで導入されているデファクトスタンダードとも言えるデータベースシステムであり、国際対応も視野に入れた本システムの本格導入は、日本の化学メーカーとして初めてのことです。

適正な化学品管理の重要性に対する認識が世界的に高まる中、年々強化される化学品規制への適切な対応や、リスク評価に基づく安全性確保のための取組みを推進するために、化学品の安全性情報を収集し管理することがきわめて重要になってきています。住友化学は社内に専門の安全性研究組織を有し、先端技術を駆使しながら、化学品の開発、製造、販売、使用、廃棄といったライフサイクルの各段階を想定したリスク評価・管理を行うとともに、独自に情報管理システムを構築し運用してきたところですが、長年にわたり蓄積してきたこれらデータも活かしながら、住友化学が取り扱う全ての化学品についての安全性や適用法規、MSDS 等に関する情報を「SuCCESS」で一元管理することにより、全ての社員がイントラネットを通じて必要な情報を閲覧しリスク管理に活用することができる体制が整いました。

住友化学は引き続き、「SuCCESS」を有効に活用し、WSSD の 2020 年目標 に向けた適切な化学品管理の推進に、全社を挙げて取り組んでまいります。

以上

() WSSD の 2020 年目標

2002 年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（The World Summit on Sustainable Development：WSSD）」において提唱された、「2020 年までに化学物質の製造・使用が人の健康や環境にもたらす著しい悪影響を最小化することを目指す」という化学物質管理における国際的な目標。その実現に向けて、国連環境計画を推進母体とする「国際的な化学物質管理に関する戦略的アプローチ（SAICM）」や、SAICM と方向性を共有しつつ実施する化学産業界の自主的な対応として提唱された「Global Product (Stewardship) Strategy (GPS)」といった取組みが進められている。